水産研究・教育機構 機関リポジトリ
FRA Japan Fisheries Research and Education Agency Institutional Repository

北水研らの海洋モニタリング調査が国際的な賞を受賞！

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009790

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.

トピックス

北水研らの海洋モニタリング調査が国際的な賞を受賞！

生産環境部生産変動グループ　Aライン調査チーム

北水研が中心になって27年にわたって行ってきた海洋モニタリング調査に対して、国際機関より賞が授与されました

漁場の形成や幼稚魚の成長、生き残りなどは、海流や餌となるプランクトンの分布の変動に大きく影響を受けています。また北日本の道東・三陸沖は北の親潮と南の黒潮混合水がぶつかり合って複雑に分布することによりプランクトンの生産が高いため日本有数の漁場を形成していることが分かっており、その分布の変動やどのようなメカニズムで水産資源に影響を及ぼしているのかを知ることは大変重要です。

北海道区水産研究所（北水研）は表層から深層までの海洋構造やプランクトンの分布と種類、そして海水中の化学物質の分布など総合的な海洋環境の調査を目的として、道東沿岸から三陸沖に至る観測定線（Aライン*、図1）を設置して、漁業調査船北光丸などを用いて1987年から定期的な海洋観測調査を行ってきました（写真1）。現在では東北区水産研究所（塩釜）、中央水産研究所（横浜）の2つの研究所と協力しながらさまざまな分野の観測・研究を行っています。その結果、親潮－混合水域のプランクトンの季節的な変動の特徴をはじめ、北太平洋の中層水の形成過程の解明、植物プランクトンの増殖に不可欠な鉄分の海洋への供給過程、地球温暖化による気候変動が北太平洋の漁業資源に及ぼす影響のシミュレーションなど、多くの成果が得られています。このような海洋での長期のモニタリング研究は世界的にも大変少なく、得られたデータも学術的価値の高いものとなっています。

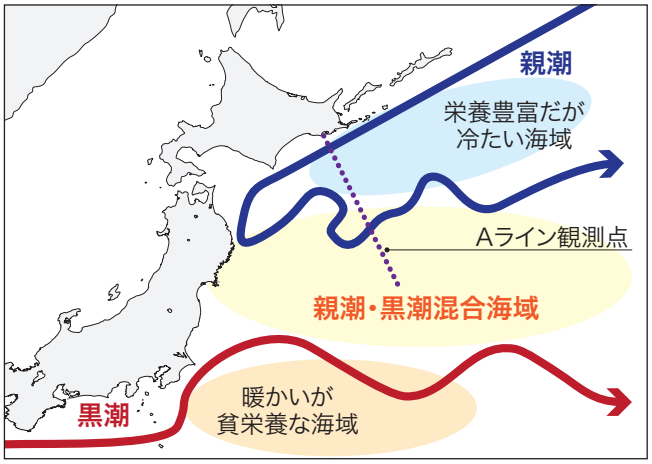

図1　Aラインの場所と太平洋側の海流の分布

そして昨年秋、カナダで開催された北太平洋海洋科学機構（PICES）の年次会合において、長年のAラインモニタリング調査活動に対して、PICES海洋モニタリング賞（PICES Ocean Monitoring Award: POMA）が授与されました（写真2）。POMAの受賞は日本では2例目となります。PICESは北太平洋の海洋調査の促進と調整、海洋科学に関する情報交換などを目的に1992年に日・米・露・加・中・韓の6ヶ国によって設立された政府間科学機関です。今回の受賞によって、北水研を中心とした海洋モニタリング調査が国際的にも高く認められたことになります。一方で、これは北水研だけでなく我が国の水産・海洋研究機関全体の研究連携の結果とも言えるものです。

Aラインモニタリング調査は今後も続けていく予定です。貴重なデータが更に積み重ねられ、そのデータを多くの研究者が利用していくことによって、北太平洋の環境や生態系、水産資源の変動に対する気候変動の影響などが明らかになることが期待されています。

写真1　Aライン調査での観測風景（プランクトン採集）

写真2　PICESより授与されたPOMAの賞状

* Aライン：定線の起点となる厚岸湾の頭文字をとりAラインと名付けられました。モニタリグ調査のデータや研究成果は以下のサイトでご覧いただけます。 http://tnfri.fra.affrc.go.jp/seika/a-line/a-line_index.html